



平成26年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 吉野家ホールディングス

コード番号 9861 URL <http://www.yoshinoya-holdings.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河村 泰貴

問合せ先責任者 (役職名) 社長室長 (氏名) 斎藤 公利

TEL 03-4332-9701

四半期報告書提出予定日 平成25年10月11日

配当支払開始予定日

平成25年11月11日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年2月期第2四半期の連結業績(平成25年3月1日～平成25年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年2月期第2四半期	86,754	6.9	706	△52.1	1,274	△29.9	224	△28.7
25年2月期第2四半期	81,150	0.6	1,472	△29.0	1,819	△14.3	315	△56.3

(注)包括利益 26年2月期第2四半期 461百万円 (35.0%) 25年2月期第2四半期 341百万円 (△32.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年2月期第2四半期	4.38	—
25年2月期第2四半期	6.14	—

(注)平成25年9月1日付で、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	%	%
26年2月期第2四半期	98,584		43,337		43.3	
25年2月期	91,338		43,390		46.8	

(参考)自己資本 26年2月期第2四半期 42,668百万円 25年2月期 42,714百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年2月期	—	1,000.00	—	1,000.00	2,000.00
26年2月期	—	1,000.00	—	—	—
26年2月期(予想)	—	—	—	10.00	—

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成25年9月1日付で、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。そのため、平成26年2月期における第2四半期末の配当金につきましては、株式分割前の数値で算定しておりますが、期末の配当予想につきましては、株式分割後の数値で算定しております。

3. 平成26年2月期の連結業績予想(平成25年3月1日～平成26年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	172,000	4.5	1,600	△14.8	2,200	△10.6	250	—	4.87

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

平成25年9月1日付で、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。1株当たり当期純利益は、当該株式分割を考慮して算定しております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年2月期2Q	66,240,500 株	25年2月期	66,240,500 株
② 期末自己株式数	26年2月期2Q	14,845,900 株	25年2月期	14,845,900 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年2月期2Q	51,394,600 株	25年2月期2Q	51,394,600 株

(注)平成25年9月1日付で、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・平成25年9月1日付で、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。
・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報P.	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報P.	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報P.	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報P.	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項P.	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動P.	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用P.	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示P.	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要P.	5
4. 四半期連結財務諸表P.	6
(1) 四半期連結貸借対照表P.	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書P.	8
四半期連結損益計算書P.	8
四半期連結包括利益計算書P.	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書P.	10
(4) 継続企業の前提に関する注記P.	12
(5) セグメント情報等P.	12
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記P.	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間の外食業界におきましては、企業間における顧客獲得の競争は激しさを増しており、当業界を取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況で推移いたしました。

このような環境の中、当社グループでは、各社の成長促進に向けて、スピードのある意思決定を可能とする組織基盤を固めてまいります。また、今まで拡大してきたアジア市場を維持しつつ、中国での成長戦略の実施、米国事業の再構築に着手し、当社グループの成長の新たな原動力を育ててまいります。

そして「多様な人材を取り込み、その人材が実力を十二分に発揮できて、正当な評価を受ける」という企業文化を強化するための促進元年として、多様性を促進していくためのインフラ整備と人事交流をスタートし、あわせて長期的視点に立った人材育成のための研修・教育制度を構築してまいります。

当第2四半期連結累計期間の連結売上高は、前年と比べ56億4百万円増加し、867億54百万円となりました。利益につきましては、原材料価格の高止まりや国内吉野家での重点的な広告宣伝費の投下の影響等から連結営業利益7億6百万円、連結経常利益12億74百万円、連結四半期純利益は2億24百万円となりました。

連結売上高	867億54百万円	(前年同四半期連結売上高	811億50百万円)
連結営業利益	7億6百万円	(前年同四半期連結営業利益	14億72百万円)
連結経常利益	12億74百万円	(前年同四半期連結経常利益	18億19百万円)
連結四半期純利益	2億24百万円	(前年同四半期連結四半期純利益	3億15百万円)

セグメント概況につきましては、次のとおりであります。

《国内吉野家》

国内吉野家は、前期に引き続き、「価値創り」「環境創り」「構造創り」を実践してまいります。「価値創り」とは魅力ある商品とサービスの創造、「環境創り」は、お客様がより利用しやすい店舗レイアウト創りや出店戦略を推し進めます。そして「構造創り」によって、構造をリセットし、新しいコスト構造を構築してまいります。今年4月には吉野家の大切にしている価値観である「うまい、やすい、はやい」を実践し、入客数と売上増加に向けて、牛丼を平成16年の販売休止時と同じ価格に改定するとともに「吉野家史上最高のうまさへ」の訴求に向け、全国規模での販売促進活動を行いました。6月には季節商品である「鰻丼」、7月には「焼き」にこだわった「ねぎ塩ロース豚丼」「牛カルビ丼」、8月には「新・焼鳥つくね丼」を発売いたしました。今後も中長期的な吉野家の新しい価値の創造を目指した商品創りを行ってまいります。また、新たな店舗モデルを実現するための「環境創り」につきましては、今後、郊外店舗はドライブスルーを標準設置とし、家族連れや女性客での利用を考えた店舗・設備の開発を続けてまいります。

これらの活動の結果、当第2四半期連結累計期間においては、売上高は467億51百万円と増加したものの、主要原材料の高止まりや、重点的に広告宣伝費を投下した結果、セグメント利益は3億97百万円となりました。店舗数は、13店舗を出店し、13店舗を閉鎖した結果、1,193店舗となりました。

国内吉野家売上高	467億51百万円	(前年同四半期 売上高	437億95百万円)
国内吉野家セグメント利益	3億97百万円	(前年同四半期 セグメント利益	14億42百万円)

《海外吉野家》

海外吉野家は、中国を中心とした出店が引き続き順調に推移したものの、売上高は59億44百万円、セグメント損失は1億60百万円となりました。

店舗数は、中国大陸34店舗（福建1店舗、深圳2店舗、北京25店舗、遼寧4店舗、内モンゴル1店舗、黒龍江・吉林1店舗）、台湾2店舗、シンガポール2店舗、インドネシア2店舗、タイ7店舗、米国5店舗を開店いたしました。合計52店舗を出店し、7店舗を閉鎖した結果、622店舗となりました。

海外吉野家売上高	59億44百万円	（前年同四半期	売上高	48億79百万円）
海外吉野家セグメント損失	1億60百万円	（前年同四半期	セグメント損失	1億37百万円）

《京樽》

京樽は、「お客様にもっと満足いただける店作り」をテーマに据え、接客・販売力の強化、QSC（品質・サービス・清潔さ）の維持向上に取り組めます。また、現場力のさらなる強化を目的にフィールドトレーニング室を3月に新設し、真にお客様に向けた営業体制を確立してまいります。テイクアウト事業では主力商品である茶きん鮓や箱鮓などの上方鮓を7月にさらにおいしい商品へと改良し、外食事業では特急レーンやタッチパネルオーダーシステムを駆使し『鮓』をスピーディに提供する「SMART SUSHI」を中心に出店を行うことで、新たな価値を創造してまいります。

これらの結果、売上高は118億16百万円、セグメント利益は33百万円となりました。店舗数は、16店舗を出店し、13店舗を閉鎖した結果、333店舗となりました。

京樽売上高	118億16百万円	（前年同四半期	売上高	122億43百万円）
京樽セグメント利益	33百万円	（前年同四半期	セグメント利益	1億49百万円）

《どん》

どんは、国内事業活性化をテーマに全業態で「肉（29）の日」のキャンペーンを継続し、更なる集客の強化を図ってまいりました。また、「ステーキのどん」では、8月29日に全店一斉にステーキ食べ放題を行い、“食事の楽しさ”を提供し、「フォルクス」では前期からの老朽化店舗の改装による集客、新規顧客開拓を継続いたしました。「どん亭」では、寿司・そばを全店に導入することでしゃぶしゃぶ業態の活性化を図りました。また、事業成長戦略として、ネットショップでの「外販事業の拡大」と、経営課題克服への重要課題として、階層別研修による「人材育成」に取り組ましました。

これらの結果、売上高110億94百万円、セグメント利益1億65百万円となりました。店舗数は、3店舗を出店し、1店舗を閉鎖した結果、174店舗となりました。

どん売上高	110億94百万円	（前年同四半期	売上高	102億88百万円）
どんセグメント利益	1億65百万円	（前年同四半期	セグメント利益	52百万円）

《はなまる》

はなまるは、5月に東京・霞ヶ関の官庁施設の職域食堂に初出店いたしました。また、健康をテーマとした「はなまる」しか作れない素材開発を継続して行い、4月からうどんメニューに使っている麺を、すべて食物繊維を練り込んだ麺に切り替えました。6月からは吸油率を47%カット（従来比）した「ヘルシーかきあげ」の販売もスタートいたしました。この他にも魅力的な季節商品を継続的に導入し、5月は「シーザーサラダうどん」、7月は「おろしざる」、8月には「おろし醤油」を販売いたしました。

これらの結果、売上高92億71百万円、セグメント利益6億11百万円となりました。店舗数は、20店舗を出店し、11店舗を閉鎖した結果、336店舗となりました。

はなまる売上高	92億71百万円	(前年同四半期	売上高	80億7百万円)
はなまるセグメント利益	6億11百万円	(前年同四半期	セグメント利益	3億66百万円)

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ72億46百万円増加し985億84百万円となりました。負債は、前連結会計年度末に比べ72億99百万円増加し552億47百万円となりました。純資産は、前連結会計年度末に比べ52百万円減少し433億37百万円となり、自己資本比率は、前連結会計年度末比3.5ポイント減少し43.3%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成26年2月期の通期の業績予想につきましては、平成25年4月15日の決算短信発表時に公表いたしました数値から修正しております。

なお、詳細につきましては、平成25年10月4日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,244	20,467
受取手形及び売掛金	2,757	3,866
商品及び製品	2,388	2,755
仕掛品	52	53
原材料及び貯蔵品	2,147	1,979
その他	2,659	2,683
貸倒引当金	△5	△3
流動資産合計	24,242	31,802
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	25,354	25,729
その他(純額)	13,382	13,513
有形固定資産合計	38,737	39,242
無形固定資産		
のれん	1,685	1,570
その他	2,390	2,162
無形固定資産合計	4,076	3,732
投資その他の資産		
投資有価証券	999	1,037
差入保証金	15,440	15,335
繰延税金資産	1,037	876
その他	7,006	6,739
貸倒引当金	△202	△182
投資その他の資産合計	24,282	23,807
固定資産合計	67,095	66,782
資産合計	91,338	98,584

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,116	5,954
短期借入金	11,630	16,826
1年内返済予定の長期借入金	5,235	5,406
リース債務	800	660
未払法人税等	382	573
賞与引当金	1,212	1,104
役員賞与引当金	116	59
株主優待引当金	206	213
資産除去債務	19	23
その他	7,394	9,015
流動負債合計	31,115	39,837
固定負債		
社債	750	750
長期借入金	9,534	8,630
リース債務	1,091	1,089
退職給付引当金	591	602
資産除去債務	2,363	2,341
その他	2,501	1,995
固定負債合計	16,832	15,409
負債合計	47,948	55,247
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,265	10,265
資本剰余金	11,139	11,139
利益剰余金	41,105	40,816
自己株式	△18,089	△18,089
株主資本合計	44,421	44,132
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△4	△5
為替換算調整勘定	△1,701	△1,458
その他の包括利益累計額合計	△1,706	△1,464
少数株主持分	675	669
純資産合計	43,390	43,337
負債純資産合計	91,338	98,584

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
売上高	81,150	86,754
売上原価	28,863	32,825
売上総利益	52,286	53,928
販売費及び一般管理費	50,814	53,222
営業利益	1,472	706
営業外収益		
受取利息	23	22
受取配当金	47	163
賃貸収入	235	192
持分法による投資利益	102	37
雑収入	446	548
営業外収益合計	855	965
営業外費用		
支払利息	210	185
賃貸費用	194	170
雑損失	103	40
営業外費用合計	509	396
経常利益	1,819	1,274
特別損失		
減損損失	517	334
契約解約損	32	50
特別損失合計	550	385
税金等調整前四半期純利益	1,268	888
法人税、住民税及び事業税	675	562
法人税等調整額	283	153
法人税等合計	958	715
少数株主損益調整前四半期純利益	309	172
少数株主損失(△)	△5	△52
四半期純利益	315	224

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	309	172
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5	△1
為替換算調整勘定	37	290
その他の包括利益合計	32	288
四半期包括利益	341	461
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	343	467
少数株主に係る四半期包括利益	△1	△5

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,268	888
減価償却費	2,768	2,709
のれん償却額	60	128
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△15	△22
賞与引当金の増減額(△は減少)	△279	△111
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△30	△57
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△14	7
退職給付引当金の増減額(△は減少)	13	10
受取利息及び受取配当金	△71	△185
支払利息	210	185
持分法による投資損益(△は益)	△102	△37
減損損失	517	334
売上債権の増減額(△は増加)	△195	△1,107
たな卸資産の増減額(△は増加)	△248	△166
仕入債務の増減額(△は減少)	1,554	1,807
その他	657	920
小計	6,093	5,304
利息及び配当金の受取額	62	177
利息の支払額	△201	△173
法人税等の支払額	△1,076	△382
法人税等の還付額	5	199
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,883	5,124

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△129	△79
定期預金の払戻による収入	28	95
有形固定資産の取得による支出	△3,662	△2,574
有形固定資産の売却による収入	424	20
無形固定資産の取得による支出	△91	△36
資産除去債務の履行による支出	△45	△73
差入保証金の差入による支出	△355	△301
差入保証金の回収による収入	424	568
貸付けによる支出	△114	△25
貸付金の回収による収入	103	58
投資不動産の売却による収入	982	—
関係会社株式の取得による支出	△1,988	—
関係会社出資金の払込による支出	△259	—
その他	13	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,670	△2,347
財務活動によるキャッシュ・フロー		
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△518	△554
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△3,558	5,160
長期借入れによる収入	5,845	1,900
長期借入金の返済による支出	△2,618	△2,664
社債の発行による収入	750	—
配当金の支払額	△518	△511
少数株主への配当金の支払額	△26	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△644	3,329
現金及び現金同等物に係る換算差額	15	110
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△416	6,217
現金及び現金同等物の期首残高	17,062	14,003
現金及び現金同等物の四半期末残高	16,645	20,221

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 3
	国内 吉野家	海外 吉野家	京樽	どん	はなまる	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	43,005	4,879	12,240	10,259	8,007	78,393	2,757	81,150	—	81,150
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	790	—	3	28	—	821	267	1,089	△1,089	—
計	43,795	4,879	12,243	10,288	8,007	79,214	3,025	82,239	△1,089	81,150
セグメント利益 又は損失 (△)	1,442	△137	149	52	366	1,874	△43	1,830	△358	1,472

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社5社を含んでおりま
す。

2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△358百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用
△1,034百万円、セグメント間取引消去701百万円、及びのれんの償却額△25百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「はなまる」セグメントにおいて、平成24年6月28日に実施いたしました株式の追加取得に伴い、の
れんの金額に重要な変動が生じております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連
結累計期間においては1,232百万円であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 3
	国内 吉野家	海外 吉野家	京樽	どん	はなまる	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	46,138	5,944	11,763	11,050	9,271	84,169	2,585	86,754	—	86,754
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	612	—	52	44	—	709	208	918	△918	—
計	46,751	5,944	11,816	11,094	9,271	84,878	2,794	87,672	△918	86,754
セグメント利益 又は損失(△)	397	△160	33	165	611	1,048	22	1,070	△364	706

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社5社を含んでおりま
す。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△364百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用
△1,120百万円、セグメント間取引消去831百万円、及びのれんの償却額△75百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。